



ごあいさつ

伊丹市国際・平和交流協会 会長 田村 かよ子



平素は伊丹市国際・平和交流協会にご尽力賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は伊丹市国際交流協会と伊丹市平和都市推進協議会が一緒になって10年の節目を迎えました。9月には創立10周年記念事業として、アニメ脚本家の小山高生氏を迎え「世界の子どもたちに夢を～吉田竜夫の志～」と題した講演を開催、市内高校生による司会、吹奏楽部によるジャズ演奏など次世代の方々に参加いただき、若い世代が活躍した新しい試みともなりました。

また、『鳴く虫と郷町』事業の内、「まち灯りと鳴く虫」のまち灯り事業では、市民の皆様は伊丹市の国際友好都市である中国広東省佛山市のことをさらに知っていただきたいと、800年の歴史をもつ佛山伝統工芸の切り絵で灯ろうを飾りました。

そうした当協会の取り組みをNHKラジオ第一や毎日新聞、神戸新聞、ベイコムなどメディアに取り上げていただき、多くの方々に認知されましたことは大変嬉しいことでした。

さて本年5月に、「平成」から「令和」へ元号が変わりました。その節目の年に当協会の11年目のスタートを切ります。4月からの改正入管法の施行により、伊丹市でもこれからさらに多くの外国人の方が増加することでしょう。すでに海外から多くの方が来られています。そうした皆様にとって当協会主催の「日本語学習サロン」や「日本語教室」などは大きな役割を果たしております。

世界を見渡しますと、今までの常識や既成概念では先が読めない複雑な時代に入っているといっても過言ではありません。各国の協調とは反対に「自国ファースト」が横行し、核兵器廃絶どころか無差別テロ、サイバー攻撃など益々混迷を極めています。

伊丹市の平和都市宣言の中で「…戦争は人の心の中にひそんでいるのです。人類が幸せを分かち合える地球環境をつくり、自由と人権を尊び、差別や貧困をなくすことも、すべて平和の問題です。…平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。」とあります。この宣言を常に心に留めたいと思います。

ベートーベン作曲の「第九」の一節に「引き離れたものを再び結びすべての人々は兄弟となる」とあります。そのシラーの詩に込められた祈り、人と人との絆を大切に、離れた絆もまた結び直す、そこに繋がる活動は何か一若い世代の柔軟な発想と協力を求めながら本年の活動を進めて参りたいと存じます。

シャーロット・フィットさん（イギリス出身、国際交流員）の投稿です。

2017年8月から、伊丹市役所で国際交流員として勤めているシャーロット・フィットです。

私の実家は、イングランドのもっとも西北部にあるカンブリア州であり、スコットランドとの境目と、2017年世界遺産に登録された湖水地方国立公園が近いです。自然と歴史、文化が盛んであり、国内と国外、特に日本からの観光客がよく来てくれます。それで、私は小さい頃から日本人や日本語と接触ができ、関心を持ちました。

オックスフォード大学の日本学科に入り、神戸大学にも一年間留学しました。卒業後は日本での就職を希望し、自治体国際化協会のジェットプログラムに応募しました。2017年に日本に出発する前に、在英日本大使館の歓迎会に出席し、ある外交官の話に感銘を受けました。小学校時代に出会ったジェット参加者の英語教師がきっかけで海外と語学について関心を持って、大学を卒業してから外務省に入ったと伺いました。異文化交流というのは、本当に人と人の接触のことだ、と私は思いました。

伊丹市では、これまでに英語講座や異文化理解講座などといった色々な国際交流活動等で講師をしています。異文化理解に少しでも貢献できればうれしいと思います。



シャーロットさん